

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	0170100846		
法人名	有限会社 ティー・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7 (電話)011-766-8882		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月4日	評価確定日	平成21年12月15日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の住宅地にあり、「かるがも公園」が隣接する2階建てのグループホームである。前面には芝生や菜園があり、室内は清潔でゆったりとした造りで、家庭的で季節感のある装飾がなされている。利用開始時になるべく本人の情報を収集してきめの細かい介護計画を作成しており、日々の関わりの中で得られた情報や医療情報を蓄積しながらサービス向上につなげている。職員はみな理念を理解し、穏やかで相手を尊重し、礼儀正しく利用者などに接している。また職員の定着率が高く、職員同士のコミュニケーションも良く取れており、利用者の安心にもつながっている。また入浴は毎日、午後だけでなく午前中や夜間もできるようにするなど、利用者の希望に合わせた対応をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果をもとに各ユニット毎に外部評価項目を検討したり、運営推進会議のテーマの検討や参加者の多様性の確保など、サービスの向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に評価表を配布して記入してもらい、ユニット毎に集計して計画作成者と管理者がまとめている。出来上がった評価についての検討会や項目についての勉強会などは十分ではないので、職員にフィードバックして検討会や、ガイドブックを活用した勉強会の開催を期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は地域包括センターの職員(2名)、民生委員、町内会女性部代表、利用者家族などが参加して2ヶ月に1度開催されている。外部評価や自己評価、避難訓練、開催した行事の報告などをテーマにして討議し、議題以外の意見交換も活発に行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議を家族に案内し、可能な方に参加をいただいているほか、敬老会など家族が会話できる場面を作っている。玄関に意見箱を設置したり、アンケートを実施しており、重要事項説明書には苦情相談窓口と外部の苦情受付機関を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会のバスレクなどの行事、近くの農協で開催されるお祭り、学童のバザーなどに参加している。また小学校の音楽の演奏会に利用者と一緒に参加している。9月にホームのお祭りを開催した際には近所の方が参加してくれており、ホーム便りは地域に回覧している。

【情報提供票より】(平成 21年 11月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 2月 7日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 17人、非常勤 0人、常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円 暖房費:10,000円(11-3月)	
敷金	(有) 35,000円	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) ()円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,400円	

(4) 利用者の概要(11月 15日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	68歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 誠医会 よつぱクリニック、医療法人 清仁会 西村病院、ゆき小児歯科医院
---------	--

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念と介護理念を定め、介護理念に「地域の中で孤立しないよう交流をはかるようにつとめる」と示し、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。介護理念の項目は具体的で明確な文言で作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念と介護理念は見やすい場所に掲示され、毎日のミーティングで奇数月、偶数月毎に分けてどちらかを唱和している。また両方を表裏に記したカードを携帯し、職員が理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のバスレクなどの行事、近くの農協で開催されるお祭り、学童のバザーなどに参加している。また小学校の音楽の演奏会に利用者と観に行っている。9月にホームのお祭りを開催した際には近所の方が参加してくれており、ホーム便りは地域に回覧している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をもとにサービス向上に取り組んでいる。自己評価は全職員に評価表を配布して記入してもらい、ユニット毎に集計して計画作成者と管理者がまとめている。出来上がった自己評価についての打ち合わせや項目についての勉強会などは十分には行われていない。		まとめ上げた自己評価を職員にフィードバックして検討会を行ったり、各項目の理解を深めるためにガイドブックを活用した勉強会を開催することを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括センターの職員(2名)、民生委員、町内会女性部代表、利用者家族などが参加して2ヶ月に1度開催されている。外部評価や自己評価、避難訓練、開催した行事の報告などをテーマにして討議し、議題以外の意見交換も活発に行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターの職員が運営推進会議に参加するほか、管理者が区や市の管理者会議に参加し、行政担当者と情報交換を行っている。その他にも、生活保護、後見人制度、テレビの地上デジタル化などを行政に相談し、解決している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の様子を個別に報告したり、来訪が少ない場合は電話や手紙で報告している。毎月ホーム便りを作成し、金銭出納報告や個別に作成する医療情報とともに郵送している。また職員の交代もホーム便りに掲載している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を家族に案内し、可能な方に参加をいただいているほか、敬老会など家族が会話できる場面を作っている。玄関に意見箱を設置したり、アンケートを実施しており、重要事項説明書には苦情相談窓口と外部の苦情受付機関を明示している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑えるため管理者が職員とのコミュニケーションを密にし、働きやすい環境を作っている。全体的に離職は少ないが、止むを得ず職員の交代がある場合は、利用者のダメージが少なくなるように引継ぎ期間を十分に設けたり、利用者への伝え方を工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加した職員の報告会が開催されており、報告会のない月は管理者が講師となり勉強会を開催している。職員はその他に個人的に資格取得などの研修を受けている。一方、外部研修に参加できていない職員もあり、段階に応じた研修参加の機会が十分確保されているとはいえない。</p>		<p>職員育成の具体的な方針をもとに個別の研修参加を促すとともに、意識向上のためにも各職員が年に少なくとも1回程度、外部研修に参加する機会が確保されるよう期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は区の管理者会議において他のホームの管理者と交流している。また管理者会議で企画するスタッフ研修に職員が数名参加し、事例検討などを行って意見交換をしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前になるべく本人が見学した上で入居しているが、本人が来られない場合は管理者や計画作成者が本人を訪問し、馴染みの関係を築いている。利用開始後は他の利用者との関係を取り持ったり、家の馴染みのものを持参してきてもらうなどの工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は職員に対して昔話や料理の味付け、材料の切り方、昔のおやつ作り方などを教えてくれている。職員に感謝やいたわりの言葉をかけられる場面も多く、お互いに支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いや意思をなるべく本人から聞くようにし、言葉で確認できない場合は仕草や表情から把握している。センター方式による利用者の情報シートを作成し、毎年更新・充実して職員間で共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>作成担当者は利用開始の際に、身体状況や医療情報などを参考に暫定的な計画を作成している。2週間後に主に情報収集を目的にしたカンファレンスを開き、本人の希望や状態などを確認し、家族とも良く話し合う中で意向を取り入れて、本人らしい暮らしを支える介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は基本的には3ヶ月毎に見直している。カンファレンスでは職員が多く参加できるように時間を調整し、利用者の1日の暮らしの詳細な記録も参考にして、支援内容の評価を丁寧に行っている。骨折後や飲み込みが難しいなど状態に変化が生じた場合は、現状に即した計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の事情に応じて、受診の同行・送迎を行い、買い物や外食などの個人的な要望にもホームの車両を使用し柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎週、協力医療機関の主治医の往診と別の日に看護師が訪問しており、また歯科医の訪問診療もあり医療体制が整えられている。それらの受診記録を通して職員は情報を共有し、家族に報告している。往診時には利用者も気兼ねなく主治医に健康相談をしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の際に、「重度化した場合の対策に係る指針」を家族に説明している。終末ケアが必要な場合は別途書類で確認し関係者で方針を話し合っているが、医療行為が継続し入院治療が必要な場合には主治医と家族と話し合い希望に沿って病院を決めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>威圧的な言葉遣いがいないか、話し方のトーンに注意し、耳元で排泄の声かけをするなど、管理者は丁寧な言葉遣いや対応を常に話している。当日も尊敬のこもった穏やかな対応が見られた。個人情報の書類などはスタッフルームに保管し、利用者から離れた場所で記録をとるなどしてプライバシーに配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>レクリエーション、散歩、手伝いなどの参加には、本人の意思を確認している。食事や入浴なども基本的には利用者のペースに合わせて本人の意思で行えるように、せかせがないでゆっくりした雰囲気の中で支えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の好みや誕生日には特別メニューを取り入れている。体調や身体的状況を見て食材切り、盛り付け、味付けなどの手伝いをお願いし、食後は後片付けを一緒に行っている。職員は自然に会話を引き出し食事を共に楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があればいつでも入浴できるように浴槽に湯をはって準備してある。本人の希望に沿い午前中や夕方にも対応し、1日おきや数日の間に入ってもらっている。入浴を嫌がる利用者にはタイミングをみながら声かけの工夫で入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事手伝いのほかに、月暦の日付チェックや日めくり、洗濯物干しとたたみ、また職歴を生かした早朝の新聞配りなど、職員はそれぞれに合った役割を引き出すように対応している。利用者はボランティアによる手芸、貼り絵、カラオケなどを楽しみ、季節の行事に出かけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は隣にある公園やホームの周囲を散歩したり、ベランダや玄関前で日光浴を楽しみ、買い物やドライブなどに出かけたりしている。冬季には大通りのイルミネーションや雪まつり、近くの初詣などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。ユニットの内玄関にはチャイムを取り付け、利用者が1階と2階を行き来しているので音に注意し、自由に出入りができるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>緊急時連絡網や災害対応マニュアルがあり、火災訓練は日中と夜間を想定して年に2回実施している。訓練には利用者や地域住民も参加し、避難誘導、消火訓練などを行っている。現在、全員が緊急救命法の研修に受講できるように進めているところである。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量を記録し一人ひとりの状態を把握している。食材委託業者の栄養士がカロリーや塩分の計算をし栄養バランスを考えて献立表を作成しているが、必要に応じて食べやすいようにキザミ食やミキサー食に変えて提供している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広い廊下幅には開放感があり、トイレもゆったりした広さがあり清潔である。ユニット毎に利用者が過ごしやすいように、居間と食卓テーブルを分けて、一人掛けや数人掛けのソファやテーブルを用意し、配置に工夫がなされている。壁にはクリスマスの飾り付けや装飾品、貼り絵などが飾られ、家庭的な雰囲気が作られている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には馴染みの家具類やテレビなどを持ち込んでいる。時計や手作りの日めくり、家族の写真、また昔の趣味の画が飾ってあり、その人らしい安心した空間が作られている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。